

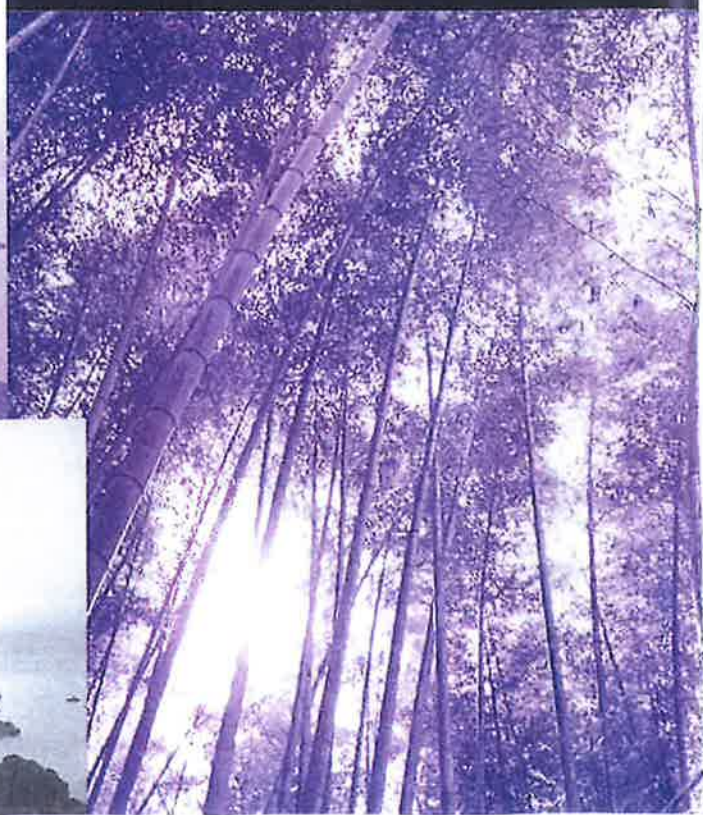
「今の日本はこのままでいいのだろうか」

武士道

BUSHIDO

第1号

平成20年8月15日



武士道憲章

- 一、武士道は志を尊ぶ
[立志]
- 二、武士道は心の清明を希求する
[清明]
- 三、武士道は公正にして信義を守る
[正義]
- 四、武士道は自己陶冶に精励する
[修養]
- 五、武士道は忠誠心を堅持する
[忠誠]
- 六、武士道は剛直をもって旨とする
[剛勇]
- 七、武士道は惻隱の情を心に蔵する
[仁愛]
- 八、武士道は礼節を重んじ、恥を知る
[廉恥]
- 九、武士道は時の流れを超越する
[超越]
- 十、武士道は天地自然の理法と共に生きる
[自然]

●プロフィール

東洋大学総長、元財務大臣

1921年、大阪府生まれ。慶応義塾大学経済学部卒。1967年、衆議院議員初当選。以後11回当選。運輸大臣、文部大臣、内閣官房長官、自治大臣・国家公安委員会委員長、自民党憲法調査会長、税制調査会長、総務会長等を歴任。2001年、小泉内閣誕生とともに財務大臣に就任。2003年、政界引退。現在、東洋大学総長はじめ数々の要職を務める。



「武士道」発刊の意義

武士道協会 理事長

塩川正十郎

戦前のわが国では、伝統的日本精神を云う場合、大和魂、葉隠、唯神道（かんながらのみち）等、多種多様な精神論があり、国論がこれらによって形成されていきました。特に、大正、昭和時代以降国家の方向が大国化を目指す軍国主義政策がとられた時、そのアイデンティティづくりに適格な指導理念となつたのであります。

戦後は、戦中の恐怖政治から解放され、精神的には虚無的な真空状態が永く続き、その間、貧困から

脱却すべく生活努力のすべてを経済優先、利己主義に徹底しましたので、低俗な風潮が蔓延しました。高度経済成長の成果に満足し、「もので栄えて魂で滅ぶ」という夢遊病状態となりました。

一九九〇年、東西冷戦体制が終幕し、東側陣営は専横政治の桎梏（しごく）をのがれ、自由経済市場に参入したので、グローバルな世界的変革が拡大しました。更に開放されたこれらの国が、社会主義独裁国家として強烈なナショナリズムの指導で発展してきたので、

わが国をめぐる近隣諸国との国際関係は、急激に変化してきました。この反省から、一部有志が中心となつて独立国家としての意識が蘇生されてきました。その先導的教本が、新渡戸稲造博士がフィラデルフィアで刊行された『武士道』（英文）であつたと思います。私は、この書を数回読みました。非常に啓蒙的で、日本精神の真髓（まゐ）が矜持（きやうじ）をもつて述べられています。まことに素晴らしい修養の書であり、また、高度の倫理教本であります。明治三〇年頃の国民の意気軒昂なるものを痛感いたします。更に本書が、あらゆる階層に大きい刺激と国民的反省を与えたことを喜んでいきます。

しかしながら、この書は、武士道を形而上学的に構成し理論づけていますので、武士道の精神をもつと生活の実態に即応した、平易で肌に実感出来るものとして考えるべきだと思っていました。

このタイミングに小野晋也代議士から、武士道を日常の行動原理として実践するため、勉強会を創ろうではないかとの誘いを請け、有志が相集い、「武士道協会」発足となつた次第であります。

まだ賛同者は少なく、広報の不足を申し訳なく思っています。取り急ぎ機関紙の第一号を皆様にお届けできること欣快に存しております。

会友の拡充を期待して発刊の御挨拶といたします。

それぞれの『武士道論』

武士道協会 副理事長

江口克彦 えぐちかつひこ



武士道とは何か、ということについては、いろいろな学者、研究者、あるいは一般の人たちも加わって、さまざまな考え方が存在しており、必ずしも、これであるというような、科学的な、明確な定義はないように思います。それは、神道の定義、解釈と同じで、だれか特定の人によって打ち立てられたものではないからです。

一般的に言って、仏教であれば、お釈迦様、キリスト教はイエス・キリスト、イスラム教であれば、マホメット、あるいは、茶道であれば、村田珠光なり千利休、華道であれば池坊専慶とかというように、明確な始祖が存在し、その人によって明確な内容が提示されています。

しかし、神道にしても、武士道にしても、始祖、開祖は存在せず、それはいわば日本人の日常の生活の中から自然発生的に醸成されてき

た、いわば自然発生的なものだからです。ですから、武士道といつても、人それぞれによって、さまざまな理解をし、さまざまな話をしますが、それは単なるひとつの意見、考えに過ぎません。事実、ある学者が、これが武士道、と定義しても、他の学者からは、それとは異なる意見の論述や主張がなされています。

たとえば、有名な新渡戸稲造の『武士道』では、正義、勇氣、仁愛、礼儀、至誠、名譽、忠節、克己などが、武士道の内容であると説いています。この新渡戸稲造の『武士道』があまりにも巷間有名になっているため、これが、あたかも唯一の武士道の解説、定義のように考えている人も多いようですが、それだけではなく、山本常朝の書いた『葉隠』を前提にする人もいます。その巻頭にある、「武士道とは死ぬこと

●プロフィール

PHP総合研究所代表取締役社長

1940年、愛知県生まれ。慶應義塾大学法学部政治学科卒。松下電器産業株式会社入社後、1967年、PHP総合研究所秘書室長、取締役、常務取締役を経て、1982年、専務取締役。1994年、副社長。2004年、社長に就任。松下幸之助のもとで23年間、直接指導を受ける。内閣官房道州制ビジョン懇談会座長、公務員制度の総合的な改革に関する懇談会委員、内閣府沖縄新世代経営者塾塾長なども務める。

著書に『地域主権型道州制』『脱「中央集権」国家論』『経営者の教科書』『いい人生の生き方』など多数。

と見付けた」という一節をもって、武士道とは、死ぬほどの思いをもって、日々懸命に生き抜くことである、と説いている人がいます。

そのような人もいれば、また、宮本武蔵の『五輪書』を原典にしている武士道もあります。これによると、我、事において後悔せず、という武蔵の言葉を敷衍して、後悔しない行動をとることが武士道だとする人もいます。山岡鉄舟は、武士道を、神道でもなければ、儒道でも仏道でもなく、神儒仏、この三つが融合されて形成されてきた、ひとつの日本人固有の道念であつて、とくに武士に特徴的であつたものである、と云っています。井上哲次郎などは、武士道とは、日本民族の道徳、国民道徳であると説いています。

いま、私の手元にある本では、『日新館童子訓』（会津藩第五代藩主・松平容頌）に基づいて武士道を説明し、武士道とは、ノブレス・オブリージュ、すなわち、高い身分の者は、身にふさわしい振舞いをしなければならないということだと論じています。

ですから、人によって解釈が違ふのです。違いますが、それらいくつかの武士道論の根底に共通する考え方はなにかということになれば、先述したように、それは、日本人が長い時間を

かけて感得し、身につけてきた、心の持ち方、振舞い方、考え方だということが言えるでしょう。

戦国時代、すなわち信長が全国統一を目指して、活動していたころ、カトリックの宣教師バリニャーノは、日本人の階層を問わず、その礼儀正しさ、振舞いの優雅さ、思いやりある人間関係など、すべての面において絶賛し、いままです巡ってきた国々、いや、ローマの人たちも、この日本人のすばらしさに優ることはない、と、当時のバチカンの法王に報告書を送っています（『日本巡察記』）。

そうした日本人の共通した特性、考え方を抽出昇華し、武士の、なんとなくひとつの心構えとなったものが、武士道ということになったのだらうと思います。

いわば、武士道とは、暗黙に合意されている精神的規律ということでしょう。この不明確にして明確、明確にして不明確な武士道ですから、それぞれの人が、日本人として、人間として、これが最高の生き方、最高の考え方と思う事柄が、それぞれの『武士道』と考えていいと思います。武士道は、そのようなものと、私は考えられています。



武士道協会の活動を 待っている日本の青少年たち

武士道協会 専務理事

おのしんや
小野晋也



「君たち、日本の青少年は、本当に幸せなのだろうか？」そして、人生を生きている実感を持って、一日一日を充実感と共に過ごしているだろうか？——こんな質問を投げかけると、恐らく、多くの青少年は戸惑ってしまうのではないか。そして、中には反発する人たちもいるに違いない。心の中にこのような質問を受け止める場所を持っていない人がほとんどだと思う。

私は、それでいいとは思わない。この世に生まれた人は、必ず生きる価値を有して生まれてきているはずであるし、生きる意味のない人生はないはずなのである。そして、生きる場所のない人生もないのである。私は、武士道協会の活動を通して、生きる意味や価値を見出せず、浮き草のように世間の風に漂い生きていくとしか見えない人たちに、人生の真価

を伝えてゆきたいと考えているのである。こんなことを語ると、「日本国憲法は、個人の思想と信条の自由を保障しているではないか。また、人間が人間に人生の生き方を教えるなんて、神じゃあるまいし、何と傲慢な人だ」と語る人もいるだろう。実際、これまで幾度、この種の批判を受けてきたことだろう。戦後の日本社会が、こんな軽薄な論理が跋扈してきた社会だと思つと、実に情けないことである。

まず、憲法の問題は、ある特定の思想や信条のようなものを、強制力を伴う形で、強制したり排除してはならないという規定に過ぎず、年上の人が年下の人に対して人生の生き方を真剣に教え伝えんとするのは、当然のことである。後者の傲慢という批判は、教えんとする人が、自らの至らなさをすることもなく、自らの人生に並々ならぬ努力を注ぐこともせ

ずに、ただ表面的な知識だけで、これが真理だと語る人に対して投げかけるべき言葉である。真剣に道を求め、それを究めんと努めてきた人が、その教えを次世代に伝えんとするのは、これもまた当然のことである。そして、そのような努力に裏打ちされた真の誠意を以てあたらなくては、その思いは決して後世に伝わり得ないものであることも事実である。

今の日本は、心の問題に触れることを頭からタブー視するという異常な社会である。それだけに、この武士道協会の活動が、そのタブーを打ち破り、青少年たちに人生をより良く生きるための足場を与える尊い活動となることを強く願っている。

私は日本の青少年は、この武士道協会の活動を心の中で長く待ち続けていたに違いないと思うのである。

●プロフィール 衆議院議員

1955年、愛媛県生まれ。東京大学工学系大学院航空宇宙専攻修士課程修了後、松下政経塾の第1期生として入塾。その後、1983年、27歳で愛媛県議会議員となり、1993年、38歳で衆議院議員初当選。現在5期目。

経済企画総務次官、自民党文部科学部会長、文部科学副大臣、自民党宇宙開発特別委員長、衆議院財務金融委員長、自民党四国地方開発委員長、自民党政策審議委員会委員等を歴任。現在は、自由民主党中央政治大学院・学院長、自民党総務、衆議院環境委員会理事などを務める。

それぞれの『武士道論』

「武士道と京都(1)」その普遍性」

武士道協会 理事

門川大作



四月、世界四十ヶ国から六百人の武

道家が一堂に会した「第三回世界武徳祭」が、京都市武道センターの旧武徳殿で開かれた。東伏見慈晃さん（青蓮院門跡門主）にお招きいただいたもので、市民の信託を得て激烈な選挙戦を勝ち抜くことができ、市長として臨席の機会を得た。

旧武徳殿



武徳殿は、明治三十年建設の京都の武道のメッカ。重要文化財の重厚な会場内に入るや、欧米等から参加の武道家が一斉に起立。深々とした九

十度の礼。水を打ったような静けさの中で、みなぎる鋭気と清しい緊張感。その荘厳さを表す言葉が見つからない。自然と背筋が伸びる思いであった。

その姿を見、武道、その根底にある武士道が、世界に通ずる「普遍性」を持つ哲学であることを改めて実感した。我が国の歴史と伝統の中で育まれてきた武士道は、根源的なところで、人間のあり方、生き方そのものを問うものであるからこそ、世界に通じる普遍性を持っているのだろう。

開会式で祝辞を述べようとしたその時、ふと、都市政策の専門家であるリム・ボン立命館大学教授から聞いたお話が頭をよぎった。先生曰く、「みなさんはよく、京都は日本人の心の故郷、精神文化の拠点都市と言われますが、日本人の〃は不要ではありませんか。京都

は世界に通じる普遍性を持っているのですから」と。私は、一呼吸おいて、「心の故郷、京都にようこそお越しいただきました」と切り出した。そして、世界の武道家が京都に求めているものが、今、京都にしっかりと根付いているのか、厳しく自問した。

武士道は〃way〃、やり方や方法を教えるだけでなく、自身がいかにかに生きるか。都市で言えば、「都市の風格」。京都の文化力、地域力、何よりも人間力に一層磨きをかけ、「日本に京都があつて良かった」と実感していただけるまちづくりに、私自身が緊張感と一体感を持ち、また、市民ぐるみで邁進したい。そんな決意を新たにしたい一日だった。

●プロフィール

京都市長

1950年生まれ。1974年立命館大学二部法学部卒業。1996年、京都市教育委員会総務部長。1999年、教育次長。2001年、教育長。2008年、第26代京都市長に就任。文部科学省中央教育審議会各部会委員、内閣「教育再生会議」委員他、多数の要職を務める。

武士道の源泉「神道・儒教・仏教」から武士道を見る

山岡鉄舟がその著『武士道』で、「神道にあらざる儒道にあらざる仏道にあらざる、神儒仏三道融和の道念にして、中古以降専ら武門に於て其著しきを見る。鉄太郎（鉄舟）これを名付けて武士道と云ふ」と著している通り、武士道の源泉は神道・儒教・仏教にあるといえるのではないだろうか。ここでは、神道・儒教・仏教それぞれの立場から、武士道を考える。

ります。

武士道は

神代の昔から

武士道協会 理事

矢作幸雄



武士道協会のパンフレットに見える写

真は竹林を撮したものです。根元からまっすぐに天を目指す竹の姿は清らかであり、しなやかであり、同時に美しくもあ

日本人はこの竹の姿を愛でて、きわめて古い時代から用いてきました。最古の書である「古事記」に、天照大御神に天

岩戸から出現して頂くために、天宇受賣命が天香山の小竹葉を手草に結いて踊ったとあります。

現在でも神事を行うとき、注連縄を引廻すのに注連竹を用い、神聖な場所を設定するのに竹は欠かすことができないものなのです。

伊勢神宮近くの、三重県多気地方には竹神社という古社が存在し、延長五年（九二七）に献られた延喜式神名帳に記載

されていますから、千年以上も昔から尊ばれてきたということになります。

更に、全国の神事でも竹は重要な位置や役割を占めています。茨城県の鹿島神宮の春の大祭祭頭祭には、大豊御竹という大きな真竹二本がそれぞれ縄で丁重に巻かれて奉納され、祭が近づく、縄を外して神前に立てます。そして夜の祭が終わる頃、町内の若衆がこの竹を参道の石畳にうちつけてささらにします。沢山に割ることによって、米の豊作を期待するのです。

竹、「たけ」という言葉は直ぐな姿を想像できますが、同時に強さをも思い起こ

することが出来ます。武士道の「武」はたけと読み、武道の祖神である武甕槌神に直ぐに結びつきます。

武甕槌神は、日本創成の昔、天照大御神の命を受けて、出雲の大国主神と国譲りの話し合いをしました。香取神宮の経津主神も同行した（日本書紀）とありますが、天鳥船神などを加えても数人で、強大な出雲を訪れたのです。

道理を説く武甕槌神に対して、大国主神と長男の事代主神は従い、二男の建御名方神は武甕槌神と力競べをして負け、諏訪に至って他に出ない約束をして許されました。

大国主神は武甕槌神に向って、国を譲るにあたって、私の住居を高天原天日隅宮の作法で建てていただきたいと願い、武甕槌神は天照大御神の許しを得て宮殿を作りました。

出雲大社の原型は、このようにして出来上がり、高天原の宮殿の姿を今に伝えています。

しかも、平安時代の本殿は「高さ十六丈（約四十八メートル）」と現在の二十四メートルの倍とされ想像以上と考えられ

ておりましたが、平成十二年に境内から巨大な掘っ立て柱の一部が出土し、三本を束ねて直径三メートルと報じられました。

正に高さ四十八メートルの社殿が実在したわけですが、武甕槌神が多くての工人を率いて建てた当初の大きさではなく、大国主神の出雲地方での治世の結果が、更に大きな社殿を構築した力となったのでありましょう。

いずれにしても、神代の神々の信義のすばらしさに心を打たれるばかりです。

武甕槌神の誠意ある説得が国譲りを実現させ、大国主神の誠意が天照大御神に伝えられて、高天原の宮殿の作法で出雲大社が建てられたわけで、その国譲りの証拠ともいえるべき出雲大社が、悠遠の刻を経て作り変えられながらも現存しているのです。

日本の国はこのように、国の誕生の頃から互いに信じあつて、和を持って結び合つて国を作ってきました。

武という文字は漢字ですが、その発生は「戈を止める」という意味を持ち、真の武は平和のために存在すること

になります。

武士の士は人偏をつければ仕となり、真心をもつて人に仕えることであり、士の心は志として、人にとって大切な心です。

武士道の道は歩むべき道を示します。天照大御神や武甕槌神の示された道が神道であり、更に武道は剣道、柔道、弓道、唐手道その他があつて、更に茶道、花道、歌道、俳句道など、伝統芸術の道は数多く挙げる事が出来ます。

武士道が決して一朝一夕のものではなく、日本の歴史と共にあったことを確認して、武士道憲章に従っていききたいと思っています。

●プロフィール

元・筑波山神社権宮司

1934年、茨城県生まれ。国学院大学に学び、1961年、大洗磯前神社権禊宜。鹿島神宮禊宜、筑波山神社権宮司等を歴任。神社本庁教諭師として、1983年より水戸少年刑務所に6年、茨城農芸学院に20年、収容青少年の相談指導にあたる。1992年と1998年に、筑波大学大学院非常勤講師をつとめる。歴史考房回帰洞を主宰。鹿島神宮教学顧問、鹿島新当流影古会顧問、鹿島神流武道連盟顧問。著書に『ともしび』（1962年にNHKテレビドラマ放映）、『やまとたけるのみこと』『にっぽんばんざい』『古代筑波の謎』など多数。

◆儒教と武士道

「儒教と武士道」

武士道協会 理事

やすおかまさやす
安岡正泰



武士道の根本的な精神とは何かを考えたとき、そこには儒教の影響がたいへん大きかったことがわかります。儒教は孔子を始祖として曾子、子思さらに荀子、朱子、王陽明などにその思想は連綿と伝承され今日に至っています。武士道はその儒教とさらに日本古来からの神道、そして仏教とが融合し影響し合って、武士の精神を作りあげたといえます。ここでは特に、儒教と武士道の関連について考えてみます。

儒教の教典は、『論語』『孟子』『大学』『中庸』の四書、さらに『易教』『詩経』『書経』『礼記』『春秋』の五経ですが、儒教の説くこれらの教えは今日まで見事に活学として生き続けています。

士の意義については『論語』に

「曾子曰く、士は以て弘毅ならざるべからず。

任重くして道遠ければなり。仁以て己の任と為す。亦重からずや。死して後已む。亦遠からずや」とあります。

士とは、心が広くおおらかで強くならなければならない。任務が重大でその道は遠いからである。仁徳を己の任務とするが、何と重責ではないか。生きている間努めねばならない、何と遠いことではないか。

仁徳についての士の重責を説いた教えの一節です。

また『孟子』には
「恒産なくして恒心あるは、唯だ士のみ能くす」とあります。

有名な文章ですが、これを読んでみますと孟子は何事にも恐れない気骨、気迫の持ち主で信念を貫いた人物であったことがわかります。『論語』『孟子』の根本精神で、これこそ武士道の精神であると思います。

話はかわりますが、私が入学したときの小学校は尋常小学校といました。「尋常」とは文字どおり「常を尋ねる」という意味です。昔の武士は戦場に臨んで敵方の武将と相対したとき「いざ尋常に勝負」と言つて刃をかわしたものです。

大人になって、どんな出来事、境遇になっても平常心を失わないことを小学生に教えておく深い

意味が、尋常小学校にあったのです。「尋常」という言葉は、やはり儒教の經典の一つである『春秋左氏伝』に「尋常に争つてその民に尽くす」から使われるようになった言葉です。今は死語のようになりましたが、伝えていきたい言葉です。

今の日本の現状は、日本人としての倫理観も道徳的規範も失い、ただ自己の欲望のみに動く、心を汚染された人々が跋扈している社会なのではないでしょうか。

日本の将来を考えると、武士道は封建時代の遺物などとみる妙なイデオロギー論者は別として、混迷した現代を救うためには、長い年月の中で培ってきた武士道の精神をもう一度甦らせることが喫緊の課題でありましょう。

●プロフィール

(財)郷学研修所 安岡正篤記念館 理事長

1931年、東京都生まれ。1956年、早稲田大学第一法学部を卒業、日本通運株式会社入社。1989年、同社取締役(総務、人事、労務部門担当)に就任。1991年、常務取締役。1993年、常務取締役中部支店長を経て1995年、退任、関係団体役員を経て、1999年、財団法人郷学研修所安岡正篤記念館理事長に就任、現在に至る。著書に、『為政三部書に学ぶ』(致知出版)など多数。

◆仏教と武士道

「武士の死生観」

田中成明
たなかじょうみょう



日本仏教で武士に大きな影響を与えたのは「臨濟禅」である。執権北条時頼（一二二七～一三〇三）は、中国より蘭溪道隆（大覚禪師一二三三～七八）を招請し、鎌倉に建長寺（現臨濟宗建長寺派大本山）を建立し開山第一世とした。二十一年間の参禅学道の後、ついに兀庵普寧（建長寺二世一一九七～一二七六）の許で然大悟した。「心こそ心迷わす心なれ心に心心許すな」と詠じ、死期が迫ると袈裟を着け辞世の詩をしたため静かに逝去した。

父の後を継ぎ十八歳で執権職となった時宗（一二五一～八四）は、円覚寺（現臨濟宗円覚寺派大本山）を創建し、一二六八年から八四までの間、度重なる蒙古襲来に際し師の無学祖元（仏光国師円覚寺第一世）に問うた。

時宗「生涯の一大事がやって参りました」
仏光「如何にしてそれに向われる所存か」

時宗「喝!!」と。全身全霊で目前に迫る数万の蒙古軍を叱咤し去ったかのように。
仏光「真に獅子児なり。能く獅子吼す」

鎌倉に在って時宗は指揮をとった。蒙古軍と直接戦った多くの武士達に、リーダーとしての覚悟と勇気とを示した。これに全国の僧侶が勝利を祈念し、日本人が一体となり、この未曾有の国難を乗りこえることが出来た。

「生死を離れぬば何事も役に立たず」（葉隠）とあるが、この生命がけの思いは、戦国乱世を生きた上杉謙信（一五三〇～七八）と武田信玄（一五二一～七三）の名将にもある。

謙信（輝虎）が初めて益翁禪師に相見した時に「貴方が真に禅を会得せんと欲せらるるならば、命を捨てて直下に死の穴に飛び込むことが必要です」と諭し励ました。この厳しい禪匠から指導を受け続けた謙信は、その後臣下の武士達に訓戒を遺している。

「生を必する者は死し、死を必する者は生く。要はただ心志の如何にあり。よく此の心を得て、守持する所堅ければ、火に入りて焼けず、水に陥って溺れず、何ぞ生死に関せんや。予、常に此の理を明らかにして三昧に入れり。生を惜しみ死を厭ふが如きは、未だ武士の心胆にあらず」と。

一方の武田信玄（晴信）は、恵林寺の快川国師の弟子である。信玄の死後、織田信長は快川を師として請じたが、快川は応じない。そこで激怒した

信長は恵林寺に兵をおくり、堂塔伽藍に火をかけた。山門に上った一山の修行僧らを前にして快川国師は「安禅は必ずしも山水を須いず、心頭滅却すれば火自から涼し」（碧巖録第四十三則）と言いつつ、全員火定三昧に入った。天正十年（一五八二）四月三日のことである。

この快川国師について参禅学道した信玄は、「参禅嗜むべきこと。語に曰く、参禅は別に秘訣なし。唯だ生死の切なるを思う」と断じた。

この名将らの生き方死に方から、仏道と武士道の真剣さが判る。武士は仏道の真摯な求道者であり、リーダーとして賢明で勇気があり、死に面しても怯まず、芸術文化にも秀でている。

「潔く死ぬ」のは、武士の誇りであり美学でもある。「潔く」は、悔いのない、明らかな良心をもって、勇士らしく、ためらうことなく……などの意。この精神は、武士ではない現代日本人の心にも脈々と受け継がれている。そして、多くの外国人が尊敬し畏怖するのは、この日本人の「サムライ・スピリット」である。

●プロフィール アメリカ大日寺住職・ 国際マンドラ協会会長

1947年、埼玉県生まれ。1968年、東京金剛寺（高幡不動尊）にて出家得度。1970年京都大覚寺伝灯学院卒。1970年、国際仏教興隆協会よりインドに派遣される。1975年3月帰国する。1975～1978年業師寺。1978～2000年まで欧米人に仏教を伝道。2001年に帰国。早稲田大学オープンカレッジ講師。「ニューヨーク曼荼羅」、「神通力」、「親学行」他、多数の著書がある。

武士道と掃除道

武士道協会 理事
かぎやま ひでさぶろう
鍵山秀三郎

心の掃除法

武士道は「困難から逃げないこと」「人には親切にすること」など、心の在り方を説いています。それには、心が強く清らかでなければなりません。心が醜く汚れてしまっている、困難から逃げるだけでなく、人をだましたり、妬んだりします。それを「心を失う」といいます。

心を失わなければどのような困難も乗り越えられることは、過去の歴史が証明しています。一方、心を失えば小さな困難にも耐えられないことも、多くの人が自分の人生で学んでいることでしょう。その大事な心を、いつも湧き出る泉のように清らかにする方法。私が心がけてきたことは、掃除をすること以外に、出来るだけ「人に親切にすること」です。人はイライラすると、そのイライラした気持ちを周囲の人々に八つ当たりをして憂さを晴らすものなのです。ところが、人に八つ当たりをすればするほど虚しくなり、心が荒むのは自分です。

心が荒むと、身の回りで起こることに対して、ことごとく神経が過敏となり、腹立たしくなります。安らかな眠りにつけず、いつも気だるさだけが残り、エネルギーが再生されません。

私は、自分がイライラしていたり、苦難に直面していると、きこそ、周りの人々に親切にすることを心がけています。人に親切にし、人の喜ぶ顔を見ると、自分が直面している悩みや苦しみを小さく受け止めることができるようになるからです。できるだけ「人に親切にすること」が、私にとって最良の心の掃除法になっています。心が掃除された状態は、武士道精神が十分に活かされているときでもあるのです。そこで武士道に相應しい三冊の素晴らしい本を紹介いたします。

『代表的日本人』

内村鑑三著 鈴木範久訳
岩波文庫刊

『日本絶賛語録』

村岡正明著
小学館刊

『愚者の知恵』

町田宗鳳著
講談社「α」新書

●プロフィール

(株)イエローハット取締役相談役
1933年、東京生まれ。1952年、疎開先の岐阜県立東濃高校卒業。1953年、デトロイト商会入社。1961年、ローヤルを創業し社長に就任。1997年、社名をイエローハットに変更。1998年、同社取締役相談役となる。創業以来続けている「掃除」に多くの人が共鳴し、近年は掃除運動が内外に広がっている。「日本を美しくする会」相談役。
著書に『凡事徹底』『鍵山秀三郎語録』『小さな実践の一步から』など多数。



「学校教育と 武士道精神」

【第一回】

武士道協会 理事
う え た ひ ろ か ず
植田 宏和



歴史学者アーノルド・トインビー博士は、ローマ帝国研究の中で、「一つの国が減じるのは、戦争によってではない。天変地異でもなければ、経済的破綻によってもない。国民の道徳心が失われた時に、その国は減じる」と明確に示した。利益のために詐欺まがいの経営を行う企業、殺すなら誰でも良かったと自己の欲求のみを満たそうとする事件、インターネットやメールを使った虐め等、現在の日本人の道徳心は地に落ち、倫理観の欠如や規範意識の低下が大きな社会問題となり、日本全体が危機に瀕していると感じる。

このような現状を打破するために、教育の果たすべき役割は大きい。昭和三十三年に道徳の時間が特設され、道徳教育は学校教育全体で行い、それらを補充、深化、統合していく

という、全面・特設主義が始まった。それから、五十年経過した現在日本人の道徳心は、向上したとはとても言えない。今後、倫理観や規範意識を向上させるためには、日本古来からの生活習慣の中にある、伝統と文化を学び、それらを尊重した教育を推進することが必要不可欠である。

しかし、日本の生活習慣が欧米化する中で、凜とした日本人の美しさが忘れられてきた。IT化が進みインターネットや携帯電話の普及の中で、様々な場面において匿名性が増してきた。これは、子供社会においても同様である。

そんな時代だからこそ、倫理道徳がより大切なのである。教育は「百年の大計」といわれるように、教育効果が直ぐに表れるようなものではないが、これからの日本の未来を担う子供たちに、「仁義礼智信」に通ずる武士道の精神に立つ心の教育を進めていくことを、より重要視しなければならない。

学校現場においては、指導者たる教師が、武士道憲章の精神に則った指導観を持つことが大切であり、教師自身が日本人としての誇りを持ち、子供たちの心を育んでいくことが教師の使命であると考ええる。

●プロフィール

全日本教職員連盟委員長

1960年、徳島県生まれ。鳴門教育大学大学院学校教育研究科修了。徳島県公立学校教員、全日本教職員連盟事務局次長、事務局長、副委員長を経て、全日本教職員連盟委員長に就任。現在に至る。



「社員教育と 武士道」

武士道協会 常務理事&事務局長

ほんだ ももよ
本多百代



武士道は知行合一を大切にします。私たちの祖先は「論語読みの論語知らず」と言って、知識を振りかざす一方で、実行が伴っていない有様を、恥ずべき行為として嫌いました。そこで、武士道を導入した社員研修では、知識を智慧にするために必要な、正しい心を学びます。

なぜ正しい心が必要か、それは、判断をする時に正しい心がなければ、損得勘定が働き、自分のことしか考えない決断を下すからです。それでは愛社精神も育まれず、会社を利用することを考えますから、不正も起こします。業績が悪くても無関心、いざとなったら辞めればいいと思うことでしょう。

日本は古の時代から、親孝行は何よりも大切なこととされてきました。親を殺すなどもつての外でした。生まれた時から無償で面倒を見てくれた親。子にとって親の存在は、空気や水と同じで、改めて意識することもない「当たり前」の存

在です。当たり前の存在に対して改めて感謝をし、礼を尽くすことは、簡単なことのようにでなかなか出来ないことです。この簡単で難しいことを自然にするのが、「正しい心」です。これこそが武士道であり、日本人の道徳心であり、修身なのです。

会社に勤めれば、会社が家であり社長は親です。平素から当たり前のことに感謝をし、礼を尽くす社員ならば、自然と社長に感謝をし、会社を大切にします。だからこそ、成果が出て利益が上がるのです。社員は特別なスキルを学ぶ必要もなく、特別難しいことをするまでもありません。仕事に生きがいを感じ、社会に貢献できることを名誉に思えば、自ずと意欲がわきます。だから一生懸命働けるのです。仕事を作業とみたり労働と考えていては、至福の時はきません。幸せは損得では得られず、人の役に立てた時に初めて徳が積めて、それにより幸せが身の内から湧き出て、得られるものです。

日本では六十余年の間、家庭でも学校でも修身を学べずにきました。仕事に熱中できれば鬱もなくなり、いじめも消えます。社員の意欲を上げ、自発性を高めるためにも、今、武士道が求められているのではないのでしょうか。

●プロフィール

(有)LineAge(ラインエイジ)代表取締役
武士道を取り入れた社員研修を実施。
講演講師、社員研修講師、就活セミナ
ー講師。大学ゲスト講師を務める。



会員さまからのお便り

私、許 莉萍は、1958年上海で生まれ育ちました。家族は娘が一人で、今年23歳になります。日本に来る前は上海華東理工大学出版で働いていました。縁あって漢方相談薬局の(株)誠心堂薬局で働くために、日本へ来ました。今は、ずっと日本に住んで暮らしたいと思っています。

誠心堂薬局では、武士道協会事務局長の本多百代先生の社員研修が毎月あります。初めて研修を受けた時、「武士道研修」と聞いてびっくりしました。中国では、昔ある日本軍人が戦争に負けた時に「腹切り自殺」したことが「日本の武士道精神」なのだと思います。中国では、昔ある日本軍人が戦争に負けた時に「腹切り自殺」したことが「日本の武士道精神」なのだと思います。でも、受けてみて再度びっくりしました。何故かと言えば、武士道研修で『中国古典』の中の道徳を習ったからです。異国に来て母国の古典を初めて習いました。親孝行をすること、自慢をしないこと、人を見下さないことなど、大切なことばかりでした。だから母国の偉大さと日本の偉大さを感じました。

私は武士道を学んで、もう3年になります。来日したばかりの頃の私は、自己主張ばかりしていて折れないから、上司とも喧嘩ばかりしていました。自己主張は良いことだと信じていました。そして喧嘩するとすぐに会社なんか辞めてもいいと思ったりしていました。しかし、武士道を学んでからは、不思議と調和を図るようになり、自己主張ばかりしなくなりました。だから、喧嘩していた上司と、とても仲良しになりました。そして、社長の気持ちもよく理解できるようになりました。また、辛いことから逃げずに挑めるようになったことは、私の目に見えない大きな財産になりました。

中国の先人たちは素晴らしいと思いました。それを教え続けている日本の教育は、世界の手本になるほど素晴らしいと思います。でも、日本の若者は、もっと礼儀を知らなければいけないと思うことがよくあります。中国と日本が力を合わせて、東洋の学問を世界に広められたら良いと思います。

私は外国人で初めての武士道協会の会員になったと聞きました。とっても嬉しかったです。これからは、武士道を母国中国にも伝えたいと思う気持ちが膨らんでいます。

私は続けて頑張ります! ありがとうございます。謝謝!(シェシェ!)

(株)誠心堂薬局 許 莉萍

【投稿募集】

あなたの武士道に関するご意見を事務局までお寄せください。

- 字数: 250字程度
- 住所・氏名〈ふりがな〉・年齢・職業・電話番号を明記(匿名希望の場合は、その旨も明記)
- あて先 〒601-8411 京都市南区西九条北ノ内町11 PHP研究所内 武士道協会事務局 読者投稿係
- FAX、電子メールでの応募も受け付けます。
- なお、原稿は返却できません。また、内容を損なわない範囲で修正させていただく場合もありますので、ご了承ください。

編集後記

当協会は、平成19年12月18日に発足以来、会員募集や様々な活動に取組んでまいりましたが、ようやく、会報誌創刊号を発刊させていただくことができました。

武士道という言葉を知ると、すぐに「右翼的」とか「封建時代の遺物」と否定される方が少なくありません。もちろん、昔の武士たちの生き方が、そのまま、現代の社会に通用することはないと思います。しかし、その武士たちが、大切にしていた精神、人を敬う心、恥を知る心、卑怯な振舞いをしない心、等々、そうした精神が欠けてしまっていることが、今日の「子殺し・親殺し」、「いじめ」、「異常殺人事件」、「企業の不祥事」等、これまで考えられなかった社会問題の多発を生み出しているように思います。

我々は日本人の伝統的精神とも言うべき、武士が大切にしていた精神を子どもたちに伝えていきたい、そしてより良き社会を作り上げていきたいと願っております。

この会報誌は、そうした願いを多くの仲間たちと考える場にできればと、今後、季刊誌として年四回の予定で発行してまいります。皆様方からのご意見もお待ちしております。

武士道協会 事務局

ご案内

武士道

講演会のご案内

第2回講演会

講師:江口克彦 武士道協会 副理事長、PHP総合研究所代表取締役社長

高山 直 (株)イー・キュー・ジャパン 代表取締役

門川大作 武士道協会 副理事長、京都市長 (講演順)



日時:平成20年9月21日(日) 13:30~17:30

場所:PHP研究所京都本部 〒601-8411 京都市南区西九条北ノ内町11

定員:120名

勉強会のご案内

東京

講師:小野晋也 武士道協会 専務理事、衆議院議員

他未定

日時:第1回 平成20年5月26日(月) 18:00~20:00 (済)

第2回 平成20年7月 7日(月) 18:00~20:00 (済)

第3回 平成20年9月 2日(火) 18:00~20:00

場所:PHP研究所東京本部 〒102-8331 東京都千代田区三番町3-10

定員:60名

京都

講師:小野晋也 武士道協会 専務理事、衆議院議員

他未定

日時:第1回 平成20年8月22日(金) 18:00~20:00

(第2回、第3回につきましては、現在日程を調整いたしております。決定次第ご連絡申し上げます。)

場所:PHP研究所京都本部 〒601-8411 京都市南区西九条北ノ内町11

定員:120名



会員募集キャンペーン

ただいま、会員募集のキャンペーンを行っております。ぜひ、あなたも当協会の仲間に加わりませんか。そして一緒に明るい社会づくりを目指しませんか。私どもの活動を少しでも影響力あるものにしていくためには、できるだけ多くの人と力を合わせていくことが不可欠です。すでにご入会いただいている会員の皆様には、仲間の輪をもっともっと広げていくために、ぜひお一人一名の会員紹介をお願いいたします。ご紹介いただくための案内パンフレットをご用意いたしておりますので、事務局までご連絡ください。よろしくお願いします。

武士道協会事務局

〒601-8411 京都市南区西九条北ノ内町11 PHP研究所内

TEL (075) 681-5514 FAX (075) 682-3565

URL: <http://www.bushido.or.jp/> E-mail: info@bushido.or.jp

特定非営利活動法人 武士道協会

● 武士道第1号

● 平成20年8月15日発行

● 季刊